

めぐみイエス・キリスト教会

2020年12月6日(日)第一週アドベント礼拝
週報「通算第535号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌75「神の御子は」	p. 102
【交読文】	No.2詩篇第8篇	p. 879
【賛美Ⅱ】	新聖歌78「荒野の果てに」	p. 106
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	新聖歌77「きよしこの夜」	p. 105
【聖書朗読】	マタイの福音書1章18節～25節(2017新約p. 1)	
【礼拝説教】	《ヨセフの決意》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1.「正しい人」とは？

※申命記22章23節～24「婚約中の処女の場合」 (旧約p.354下段)

22:23 ある男と婚約中の処女の娘がいて、ほかの男が町で彼女を見かけて一緒に寝た場合、

22:24 あなたがたはその二人をその町の門のところに連れ出し、石を投げて殺さなければならない。その女は町の中にいながら叫ばなかったからであり、その男は隣人の妻を辱めたからである。こうして、あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。

※申命記24章1節「妻に恥ずべきことを発見した場合」(旧約p.356下段)

24:1 人が妻をめとり夫となった後で、もし、妻に何か恥ずべきことを見つけたために気に入らなくなり、離縁状を書いてその女の手渡し、彼女を家から去らせなければならない。

●ポイント2.「夢」によって神が教えたこととは？

※創世記37章5節～8節「ヨセフの見た最初の夢から」(旧約p.68下段)

37:5 さて、ヨセフは夢を見て、それを兄たちに告げた。すると彼らは、ますます彼を憎むようになった。

37:6 ヨセフは彼らに言った。「私が見たこの夢について聞いてください。

37:7 見ると、私たちは畑で束を作っていました。すると突然、私の束が起き上がり、まっすぐに立ちました。そしてなんと、兄さんたちの束が周りに来て、私の束を伏し拝んだのです。」

37:8 兄たちは彼に言った。「おまえが私たちを治める王になるというのか。私たちを支配するというのか。」彼らは、夢や彼の言葉のことで、ますます彼を憎むようになった。

●ポイント3.「主の母マリヤの夫ヨセフの決意」とは？

※ルカの福音書2章21節～23節「エルサレムにおいて」(新約p.111上段)

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子の名はイエスとつけられた。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

2:22 そして、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子をエルサレムに連れて行った。

2:23 それは、主の律法に「最初に胎を開く男子はみな、主の為に聖別された者と呼ばれる」と書いてあるとおり、幼子を主に献げる為であった。

※出エジプト記13章1節～2節「モーセへの言葉から」(旧約p.121下段)

13:1 主はモーセに告げられた。

13:2 「イスラエルの子らの間で最初に胎を開く長子はみな、人であれ家畜であれ、私の為に聖別せよ。それは、私のものである。」

※マルコの福音書6章1節・3節「故郷ナザレにおいて」(新約p.76上段)

6:1 イエスはそこを去って郷里に行かれた。弟子たちもついて行った。

6:3 「この人は大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄ではないか。その妹たちも、ここで私たちと一緒にいるではないか。」こうして彼らはイエスにつまずいた。

◎先週のメッセージの概要【ステパノの殉教】

《ステパノは、イザヤ書を引用し、エルサレムにある神殿を否定します。『主はこう言われる。「天は私の王座、地は私の足台。あなたがたが私の為に建てる家は、いったいどこにあるのか。私の安息の場は、いったいどこにあるのか。これらすべては、私の手が造った。』と。

神様は哀れみによって、ヘロデの造った神殿に栄光を現わされました。しかし、主イエスが十字架に掛かれた時に、その栄光は取り去られたのです。それは神殿の幕が上から下に、真っ二つに裂けた時です。

ステパノは、ユダヤの指導者たちに、罪の悔い改めをせまります。『うなじを固くする、心と耳に割礼を受けていない人たち。あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖たちは、正しい方が来られることを前もって告げた人たちを殺しましたが、今はあなたがたが、この正しい方を裏切る者、殺す者となりました。』と。

ここで、彼らが主イエスを十字架につけた罪を、ステパノは明確に示しています。そしてステパノは、聖霊に満たされて、力強く告白します。

「見なさい。天が開けて人の子が神の右に立っておられるのが見えます」

人々は耳をふさぎながら叫び、一斉にステパノに殺到し、エルサレム市内から引きずり出し、石打ち場において石を投げつけるのです。

「私はあなたがたを決して孤児にはしない」この時ステパノは一人ではありませんでした。主イエスが共におられたからです。「主イエスよ、私の霊をお受け下さい。主よ、この罪を彼らに負わせないで下さい。」

この言葉は主イエスの最後の言葉に酷似しています。ステパノは主が十字架にかけられた時、ゴルゴタの丘の側にいたことが考えられます。

ステパノは最初の殉教者となりました。執事としての使命を全うする期間は短く、また決して大きな働きではなかったかも知れませんが、ユダヤ人の指導者たちに強力なインパクトを与えたことは間違いないことです。特にサウロに与えた影響は、途方もなく大きかったと言えるでしょう。》

◎お知らせ

※次回礼拝は12月13日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、年末まで毎週水曜日に各家庭において行ないます。